



サイクス (S I C S) は、産業情報支援センターの運営組織である、(株)西条産業情報支援センターの愛称です。

今月は、本年6月に就任したサイクスの新しい統括マネージャーに、地域の経済・産業の情報について聞きました。

徳永サイクス統括マネージャーに聞く

西条地域の経済と産業の展望

■ 今年の世界経済および日本経済について
本年6月、サイクスでは設立11周年を前に、新たな統括マネージャーを迎えました。今回は、地域経済・産業の状況や今後の展望について、徳永猛統括マネージャーに話を聞きました。

■ 今年の世界経済および日本経済について

2010年の世界経済は緩やかな回復が続きましたが、相変わらず米国の雇用問題や欧州の金融不安などの問題を抱えています。

日本においても、中国を中心とした新興国向けの輸出の



地域企業の何でも相談所としてご利用ください

回復などにより、景気回復の兆しが出ていましたが、デフレに加えこのところの急速な円高の影響などにより、回復の速度は弱まっています。

先行きも、中国経済の鈍化の時期や為替動向など、不透明要素が多く予断を許しません。

■ 西条地域の状況について

まず、西条地域の産業の特徴ですが、合併によって農業・工業のバランスの取れた地域となりました。

稲作や野菜・果実類など、県内屈指の農業地帯となっています。

また、臨海部を中心に工業も盛んで、西条市の工業出荷額は約6760億円(平成21年度速報値)にも上り、高知県全体の出荷額よりも多い金額となっています。

西条地域の景気についてですが、未だ雇用は厳しい状況にあり、下請け中小企業が多い当地域は親企業の意向に影

響を受けやすいのが現状です。親企業や大手企業は発注を海外へシフトさせており、グローバル化の中で価格競争にさらされるなど、経営のかじ取りも難しい状況が続いています。

特殊技術やオリジナル製品を持たない企業は、親企業と共に海外へ出て行くのか、国内に留まり縮小するパイを争奪するのか、新たな事業や業種転換を図るのか、という選択肢の中で判断を迫られています。

■ サイクスの役割について

サイクスは平成11年の設立以来、地域企業の何でも相談所として、事業の拡大や経営課題解決につながる支援を行っています。サイクスには、マーケティングやマネジメント相談に即座に対応できるネットワークが整備されています。

また、民間企業のOBで構



〔徳永 猛 プロフィール〕

1976年 法政大学卒業後、(株)伊予銀行入社
2006年 同社船木支店(新居浜市)支店長就任
2009年2月 (株)伊予銀行退職
その後、南国産業(株)・(株)えるく勤務を経て
2010年6月 (株)西条産業情報支援センター統括マネージャーに就任

成された技術相談室を設置しており、経験豊富なアドバイザーが幅広い技術相談やビジネスマッチング・産学官連携を積極的に推進しています。今後はこれらに加え、経済環境の変化により柔軟に対応していかなければなりません。西条地域には、さまざまな業種の企業が立地しています。これらの地域企業間で、横の連携が構築できないかと考えています。

横のつながりで、オリジナル技術を活かした製品が生まれれば最高です。あらためて地元に着目して、地域経済を盛り上げて行きたいと考えています。

どんな相談でも結構です。積極的にサイクスを利用していただこうと思います。